

## 「第59回福島県農業賞」表彰式

9月7日、県や県農業会議など5団体が主催する「第59回福島県農業賞（農業十傑）」の表彰式が福島市で行われ、町内の「ただみ農家の嫁俱樂部（以下、嫁俱樂部）」が、「農村女性活動の部」で表彰されました。

この農業賞は、県内の農業分野の賞で最も権威あるもので、農産物の品質向上や生産拡大などに努め、地域の農業振興に貢献された方々を部

門ごとに表彰しています。

嫁俱樂部は、南郷トマトなどを生産する町内の女性農業者の方々と組織されています。会員は17名で、三瓶やえさん（大倉）を代表に平成26年に設立されました。地元食材を使った加工品を開発し、町内のイベントで販売するなど農閑期となる冬期間の所得確保と農地の有効利用に取り組んでいます。



▲内堀知事(中央)から表彰された嫁俱樂部の皆さん

毎年2月に催される只見ふるさとの雪まつりでは、トマトピューレを使い豚肉を煮込んだオリジナルの「トマ豚鍋」を販売し、一千食を完売しました。また、「水あめ」「しみもち」「トマトもち」などの六次化商品の開発も手掛け、視察研修では直売所やレストランで販売方法などを学んでいます。このような取り組みが評価され、今回の受賞となりました。

表彰式では内堀知事から賞状などが手渡され、その活動が称えられました。

## 只見町ふるさと大使を委嘱

9月28日、只見町広報員「ふるさと大使」の懇談会が役場で行われ、前大使5名、新大使11名、町関係者6名が出席しました。

ふるさと大使は、町の観光振興などに係る広報活動を通して町の魅力を発信し、町の振興に係る意見や情報を



▲3年間各地で只見町のPRに尽力された前大使(前列)と新たに活動を始めた新大使(後列)の皆さん

提供いただくもので、只見町に理解と郷土愛を持つ町外在住者に委嘱しています。任期は最大3年間で、9月30日で前大使10名の任期が終わり、10月1日から新大使16名が新たに活動を始めました。

懇談会では、出席された前大使への感謝状贈呈と新大使への委嘱状交付を行い、菅家町長が「只見町の応援をよろしく願いたい」とあいさつしました。その後、大使との活発な意見交換が行われ、只見町の魅力について語り合いました。

### 新ふるさと大使の皆さん(順不同)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 利重 和彦さん(千葉県) | 伊地知孝雄さん(東京都) |
| 小野 公嗣さん(千葉県) | 中村 治さん(千葉県)  |
| 木原真由美さん(埼玉県) | 重石 稔さん(神奈川県) |
| 吉原 育男さん(茨城県) | 並木 徳雄さん(東京都) |
| 渡部 雄二さん(東京都) | 宮崎 哲夫さん(千葉県) |
| 鶴巻 好子さん(東京都) | 渡部美重子さん(千葉県) |
| 吉野 睦美さん(東京都) | 久保 秀次さん(東京都) |
| 大宮 明さん(神奈川県) | 所 英明さん(千葉県)  |

## 3地区で敬老会を開催

長年の功績と長寿を祝って

長年にわたり社会に尽くされた満75歳以上の方々の長寿と健康を祝う敬老会が季の郷湯ら里を会場に3地区それぞれ行われ、各地区総勢約600名が参加しました。敬老会の最初を飾った只見地区敬老会は9月8日に行われ、185名が参加しました。菅家町長は「皆さまが生涯現役で過ごせる地域づくりを目指します」とあいさつし、只見地区老人クラブ連絡協議会の鈴木稔会長が謝辞を述べ、町社会福祉協議会の佐藤克彦会長の乾杯で祝宴が始まりました。只見保育所児童や只見婦人会の皆さんが余興を披露しお祝いしました。



▲「東京ウギウギ」を披露した只見婦人会上町支部の皆さん

## モニターングツアーを開催

インバウンド対策の強化

9月7～9日にかけて、外国人旅行者を対象とした「自然首都・只見インバウンドモニターングツアー」が行われ、台湾から約10名が参加しました。これは、国道289号八十里越の開通やJR只見線全線再開通を見据えたインバウンド対策とリニューアルを図る青少年旅行村いこいの森の運営方法の検討を目的に観光商工課が主催したもので、旅行村を中心に三石神社の散策、深沢温泉での入浴、マトン焼きなどの体験を行いました。参加者は体験をとおし「只見町の文化を学べてとても好印象です」と感想を話していました。

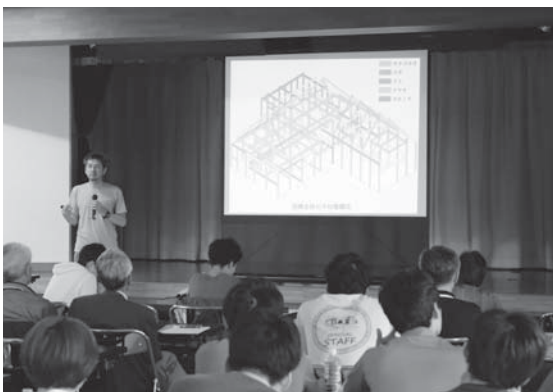


▲三石神社を散策した参加者の皆さん

## 「古民家実態調査」成果報告会

ユネスコエコパーク関連事業

9月24日、これまで未解明だった町の古民家の実態を調査した研究成果報告会が朝日振興センターで行われ、47名が参加しました。これは、景観的・文化的な価値があるものの、管理の難しさなどから失われている古民家の調査を信州大学に委託・実施したもので、報告会は同大学教育学部の井田秀行准教授を講師に迎えて行われました。報告会では、只見の古民家が何の木で造られているかを中心に話され、これまでの調査で、古民家の建材には町内の尾根に自生するキタゴヨウを多用していることが判明したことを説明されました。



▲古民家実態調査の成果を報告した井田准教授

## 吹奏楽団が只見町で演奏会

交響曲で町の音楽振興を図る

9月17日、教育委員会が主催する「会津シンフォニック・アンサンブル演奏会」が町下体育館で開催され、地域住民など約70名が来場しました。これは、町民が音楽などの芸術に親しむ機会を増やすために行われているもので、会津地域などで活躍する会津シンフォニック・アンサンブルの方々が演奏しました。演奏会は木管楽器、金管楽器、打楽器を紹介しながら「365日の紙飛行機」など全10曲を披露し、来場者を魅了しました。また、演奏会後には町が所有するトランペットなどを使った演奏体験が行われました。



▲素晴らしい演奏に耳を傾ける来場者の皆さん



### 健康への意識を高め予防推進

## 心臓病の重症化予防講演会

9月2日、狭心症や心筋梗塞などを予防するための「心臓病重症化予防講演会」が季の郷湯ら里で開かれ、約100名が来場しました。これは、平成27年度に福島県が全国で最も急性心筋梗塞の発症が多かったことから、予防推進のために開かれたものです。講師に、わかまつインターベンションクリニックの阿部巨先生を迎え、血管の動脈硬化を防ぐための適度な運動や減塩などの重要性、毎年の健康診査受診の必要性などについて講演されました。来場者は健康への知識を深めていました。



▲看護スタッフにより減塩アドバイスが受けられた健康講演会

### 初運行の只見線企画列車に乗車

## 復興大使が只見町を視察

9月15、16日の2日間、福島民報社が委嘱している「ふくしま復興大使」27名の地域活動がJR只見線沿線で繰り広げられ、只見町も活動の舞台となりました。

大使は15日に初運行された県の只見線企画列車で、会津若松駅から会津川口駅まで乗車し、車内で各地の産品を味わい、只見線沿線の魅力に触れました。列車には只見線地域コーディネーターの酒井治子さんも同乗し、只見町のブナ林散策や蒸留所ねっかななどを案内しました。季の郷湯ら里では菅家町長が一行を出迎え、只見線の復旧状況などの研修会を行いました。



▲柵戸の観察の森でブナ林に触れる大使の皆さん

### 只見町と只見線の魅力に触れる

## よしもと芸人只見線ツアー

9月3、4日、県と吉本興業が連携してJR只見線と奥会津の魅力を全国に発信する「よしもと芸人と行く！只見線体験ツアー第十弾」が仙台駅と郡山駅を発着に行われ、ツアー参加者約30名が只見町を訪れました。

ツアーは、よしもと芸人4名の方々と一緒に、季の郷湯ら里を宿泊地に青少年旅行村いこいの森でのバーベキューを楽しみ、会津川口駅から会津柳津駅までの只見線乗車などを体験しました。また、参加者には町で用意した採れたてのトマトやスイカが振舞われ、只見の味覚を楽しんでいました。



▲只見町と只見線の魅力を発信したよしもと芸人の皆さん

### 児童・生徒の健康を考える

## 合同学校保健委員会を開催

7月11日、只見町小中学校合同学校保健委員会が只見中学校で開催され、学校・医療・行政などの関係者29名が出席しました。

この委員会は、児童生徒の健康づくりを推進するために開かれているもので、健診結果から見える課題や各学校の歯科保健活動の取り組みなどについて協議されました。児童・生徒の健康課題はむし歯や肥満などが多く、各学校の予防対策などが紹介されました。また、むし歯予防意識の向上を目指した今後の活動について協議され、医師からは小さい頃からの予防教育の重要性が話されました。



「家族で行こう 定期検診」  
～白い歯と自然を守る 只見町～



## 明和地区祭礼ソフトボール

地域間の交流を深める

9月2日、第45回明和地区祭礼ソフトボール大会が明和小学校グラウンドで開催されました。地域間の交流を深めるこの大会は、7集落4チームが参加し優勝を目指しました。

大会では、塩ノ岐・二軒在家の連合チームと大倉・坂田の連合チームが決勝に勝ち進み、強打を誇った塩ノ岐・二軒在家チームが14ー7で見事優勝を飾りました。優勝した塩ノ岐・二軒在家連合チームには、表彰状やトロフィーなどが手渡されました。

試合後は各集落で懇親会が開かれ、選手同士の交流が深められています。



▲優勝を飾った塩ノ岐・二軒在家チームの皆さん

## 「祭礼」各地で豊作を祝う

神輿や山車が地域を練り歩く

9月5日、豊作などを祝う祭礼が町内各地域の神社で執り行われ、祭りを示す大きなのぼりが掲げられました。当日は、子ども神輿や山車（だし）などを引く地域もあり、町内各地で盛り上がりを見せていました。

只見地区の原集落では、上町の子どもたちも加わり、神輿や山車を引いて活気に溢れていました。外国語指導助手（ALT）のシヨーン先生とジェニファー先生も参加し、子どもたちと一緒に「わっしょい！」と大きな声で地域を練り歩き、只見の伝統行事に触れていました。



▲子どもから大人までが神輿や山車を引き地域を練り歩いた原・上町の皆さん

## 只見ソフトボールスポ少・郡大会

只見ソフトボールスポ少が優勝を飾る

9月15日、南会津ソフトボール指導者協議会が主催する「第10回県ソフトボールスポ少少年団大会・南会津大会」が南会津町のびわのかげソフトボール場で行われ、只見ソフト少年団が優勝という素晴らしい成績を収めました。

郡内9チームで争われた大会では、只見スポ少と館岩ベアーズが決勝に勝ち進み、打線が好調だった只見スポ少が見事4ー2で優勝しました。

優勝した只見スポ少は10月6日から福島市で開催される県大会に出場する予定で、県大会出場は2年連続となります。



▲素晴らしい打撃と堅い守備をみせた只見スポ少の選手と監督・コーチの皆さん

## 町内各地で「献血」を実施

輸血を必要とする人のために

9月27、28日の2日間、怪我や病気などで輸血を必要としている人のために自発的に血液を提供する「町の献血」が只見町内で行われ、多くの地域住民が協力しました。この献血は、県赤十字血液センター会津出張所と保健福祉課が実施しているもので、町の施設や町内企業など全6ヶ所を献血バスが訪問しました。

只見高校前で行われた献血では、献血バスの中でスタッフの指導を受けながら、多くの生徒が協力していました。献血協力者には、季の郷湯らりやひとつぷるまち湯の入湯券などのノベルティが贈呈されました。



▲多くの高校生が協力した只見高校前での献血